毎月一回15日
定価 1部 5円
発行所 中里村公民館

現在人口	男	4,225
	女	4,372
	計	8,597
	世帯数	1,708

24号台風の豪雨禍
六億五千八百万円の被害

直江津市など上越地方と魚沼地方に、大雨を降らせた二十四号台風の被害は、すでに報道されたように近年にない大被害となったが、郡市内では中里村が最も大きく、さきごろ役場でまとめた被害状況調査では九月二十七日現在で概算六億五千八百万円に達した。

特に被害が大きかったのは倉俣地区で、芋川、倉俣部落の間を台風の被害は、すでに報道されたように近年にない大被害となったが、郡市内では中里村が最も大きく、さきごろ役場でまとめた被害状況調査では九月二十七日現在で概算六億五千八百万円に達した。

特に被害が大きかったのは倉俣地区で、芋川、倉俣部落の間を流れている稲荷川が氾濫し、一瞬にして両部落とも村の中は大洪水となり、床上浸水三十四戸、床下浸水三十六戸のほか、刈取り寸前の水稲は濁流に押流され、収穫はほとんどゼロ、一方釜川も大洪水となり田所橋（田代所平部落間）釜川橋（倉俣重地部落間）をもぎとってしまい、国道清津橋荒屋側取付道路や県道倉俣方面道路の通称へっり付近が決壊し一時は全く孤立状態となった。

二十四号台風による村内被害概算額は次のとおりであるが、ふだんは水量が少なくとも、大雨が降ると瞬時にして増水し、激流となって暴れる急流河川の治水対策が望まれている。

▽公共土木施設（国県事業分）
①河川二十七ヵ所四億五千四百五十万円②砂防五ヵ所四千百万円③道路六ヵ所二千九百五十万円④橋梁一ヵ所一千万円、計五億三千五百万円

▽公共土木施設（町村事業分）
①道路八ヵ所三百九十万円②橋梁二ヵ所九百五十万円、計一千三百四十万円

▽農林水産施設（町村事業分）
①農業施設（農道水路など）二十六ヵ所、八千八百五十万円、②農地十六ヵ所（田十八町三反歩）二千九百十四万円③林業施設二ヵ所八十万円、計一億二千百八十四万円。

▽その他の施設
①住宅床上浸水三十四戸、六十八万円②住宅床下浸水三十六戸三十六万円③水道施設三ヵ所二十万円、計百二十四万円総計六億五千八百八万円。【写真は倉俣、芋川部落の大洪水】

—九月定例村議会—
固定資産評価審査委員、教育委員選任
災害対策費など補正予算

去る九月二十八日、午前九時より役場において第三回定例村議会が開催され会期一日の日程で土溝地区灌漑水路工事、農道路工事、県道清津橋荒屋線道路工事等の決算、固定資産評価審査委員、教育委員の選任について、一般陳情四件などを審議し、議員提案の動議もあって、午後から二十四号台風で大被害をうけた倉俣地区の災害状況を全員で視察し、大時過ぎ散会した。

▽土溝地区灌漑水路工事費専決処分については、県費補助金申請時期の関係上なされていたもので、事業費総額三千六万二千円で七川の水を田中、土溝、小原方面に灌漑する既設水路を補強修理する工事である。なお事業費は、県費補助三十%村費五%のほか、受益者負担となっている。

▽人事関係
固定資産評価審査委員高橋良平氏（倉俣）、教育委員樋口与三郎氏（朴木沢）がそれぞれ九月三十日で任期満了となるので両氏の再任について議会の同意が求められ、賛成多数をもって選任された。

▽一般会計補正予算については第四回目であるが、総額百二十四万二千円となっており、主なるものは次のとおりである。なお今回の補正で中里村一般会計予算の総額は、オ入オ出ともに一億七千百九十万五千円となった。

◎才入合計百三十四万二千円、
▽地方交付税百二十九万一千円
▽県支出金五万一千円。
◎才出合計百三十四万二千円、
▽農林水産業費五万一千円（農業委員会費）
▽消防費二十四万一千円（二十四号台風災害対策費関係）
▽災害復旧費百五万円（農林水産施設災害復旧費二十四号台風関係二十七万五千円、公共土木施設災害復旧費二十四号台風関係七十七万五千円）
▽請願陳情については、件名および請願者は次のとおり。
▽中部地区農協農機具共同修理工場施設助成について、請願者中里村内三農協組合長代表羽鳥隆吉　採択
▽倉俣本村部落田原の農道開さく助成について、請願者倉俣本村区長高橋順蔵　採択
▽第四分団第四部ガソリンポンプ更新について、請願者小出区長藤ノ木賢隆外十一名　採択
▽桂藤原村道七川橋架替について、請願者桂藤原区長村山栄一郎　委員会付託

小学校創立90周年
貝野、田沢、高道山小で記念行事実施

明治五年「学制」が公布されて今の学校教育制度がかたちづくられたが、村内の学校では、貝野小学校が明治七年に、田沢小学校、高道山小学校は明治八年二月に創立され、今年でちょうど九十周年になる。各学校ではこの意義を教育的に生かしたいと今春以来、PTAや、卒業生有志の協賛を得て、学校環境の改善、教材教具の整備充実を図る記念事業を実施してきましたが、田沢小学校がきたる十月二十五日、貝野小は十一月四日、高道山小は十一月九日に、それぞれ記念式典を挙行することになっています。

各学校の記念事業の主なものは、田沢小学校では、子どもたちの責任感と友愛精神を育てようと青少年赤十字に加盟したこと、また情操教育をのばすため音楽教具の設備や八ミリ映写機など視聴覚教材を購入したほか歴代校長、卒業生写真の掲額、記念運動会、学芸会、展覧会などを開くことになっている。貝野小学校でも、音楽をはじめ理科、体育などの教具を備えたり、校庭整備など環境づくりに力を入れ、また同校では学区民が自発的に部落有林に記念植林を行ない、将来、学校施設々備の充実に備えたいといっています。また高道山小学校では、一学期早々、全教室にテレビ受像機を設備し、テレビ学習によって教育効果をあげ、学校環境の整備をはかろうと、学校造園計画を立てています。これは、恵まれた水利を活かし教材用、防火用を兼ねた池をつくり自然石を配し、芝生をつくって校庭の風致を整え、運動遊具を備えて児童たちがたのしく遊べる環境づくりに力を入れています。

仲秋閑言

斉藤大馨

農村人のサラリーマン化は最近とみに目まぐるしい。二、三男が都会へ出るのは常識で、なかには世帯主が勤め人になり、主婦や老人に百姓を任せているものもある。いわゆる一飯米農家一で、百姓をやるというよりも、内職へ転落している感がある。このことは、大都会の近郊農村の出来ごとと今までは思っていたが、近頃はこうした傾向が日を追って私共の身近にも波及し、百姓を苦しいする風潮は、一世を風靡するかに見える。

あとつぎの長男さえも、何とか口実をもうけて、都会へ出ようとする。これをひき止めようと、単車や耕うん機等々を買って若いものの関心をつなごうとしている。企業経営の必要から機械化を断行するならばなしはわかる。ところが若いものの関心をつなぐため、或いは一種のムード的気持で購入するとなれば、当然収支のつぐなうはずはない。

月賦返済に追いまくられて、四六時中経済的不安にかられているのが農村の現状ではあるまいか。百姓ぎらいは別に男子青年に限らない。娘さんも農家へ嫁ぐのを敬遠し、長男の嫁もらいにどこへいっても一苦労のようである。

どうしてこうも、百姓に劣等感をもつようになったのだろうか。これには長い間の歴史の伝統を、見逃がしてはならない。

ホワイトカラーの源流は、徳川時代に形成された武士階級に求められる。彼等は形こそ違い現代のサラリーマンとかわらない。士農工商の階級制度は、いっそう武士階級にあこがれをもたせた。

日本が現代化するにつれて工業と商業とは武士階級をしのぎ原始産業の農業をグングン引きはなしていった。当然のこととはいえ、優秀な農村の人材は、都市に集中せざるを得なかった。ホワイトカラー族が、農民を一段下に見おろして、エリート意識をもったのも自然の勢いである。

なるほど明治時代のインテリは自分の実力で開拓したのだから、指導者意識もわからないではない。しかし、現代のようにあらゆる子弟が、学校教育をうけ、単なる頭脳労働者へ転落しているとき、百姓を一段下に見るのは思い上りも甚だしい。

これは明治以来、慢性的な農民の都市生活者に対する劣等感が、支配的になっているからだ。果たしてホワイトカラーの生活はそんなに恵まれているのだろうか。

農村は貧しい。百姓は損だとか一口にいうが、一例をあげるに、農業経済専攻の学者等にいわせると、大学教授の待遇は単作一町歩の自作農に匹敵するらしい。単作一町歩といえば、裏作の出来るところでは、六、七反歩になる。六、七反歩は、日本農民の代表的な水準である。それに大学教授は単なる月給とりで、土地や建物をもっていないものが多いそうである。

なるほど百姓は最も厳しい労働をするが、一年中からだをつかっているわけでもない。しかも雪国では必然的に冬の三、四ヵ月は休業状態になる。

足の踏み場もない満員電車にもみくちゃにされ、ゆられ、一日中きめられた仕事をやり、オートメーションで、一瞬も目をはなせない都会生活が、幸福かどうか。街角を横切るにも、いのちをかけなければならない交通戦争、アパートといえばマッチ箱同然で、大自然に親しむ機会も少ない。

こういう生活にあこがれるのは百姓に対する被害妄想にすぎない。よその花は赤い。亀の子タワシのように全神経をとがらせたり、機械の部分品になる生活より、大自然を相手に悠々とわが道をゆくほうが、どのくらい幸福かわからない。そこに人生を創造するなにものにもかえられない楽しみがあるように思われてならない。物事はすべて考えよう、視点のおきどころである。ふるさとの山河大地又汝を養なうであろう。

グループ紹介
稔健育会

丈夫な赤ちゃんに育てようと毎月一回赤ちゃんの体重測定をつづけているグループがあります。小原、千溝田中、桂のお母さん方の稔健育会です。この会は保健婦さんの母子組織づくりのよびかけをキッカケにつくられたグループですが、いま会員は約三十名、婦人会の役員さんの協力を得て、毎月三十日に部落公民館に集まり、体重測定をしたり栄養や健康について保健婦さんたちの指導をうけたり、毎月一回みんなでべんきょうしています。オギャーオギャーの赤ちゃんから、ハイハイヨチヨチの赤ちゃんまでいつも二十人以上も集まるのでなかなかにぎやかでほほえましいが、子供たちの健やかな成長をねがうお母さんたちはしんけんです。

【写真は稔健育会の人たち】

11月14日 県知事選挙
投票日!!
明るく正しく選びましょう

きたる十一月十四日は、新潟県知事選挙投票日です。みんなが明るく正しくしっかり選びましょう。県や市町村の行政は、教育、産業、土木、社会福祉、保健衛生など、私たちの毎日の生活に直接関係のあるものばかりです。このような地方自治をどのように運営し、福祉の向上や地域の発展を図るかは、私たち自治体住民の政治や行政の主権者としての責任です。私たちが首長や議員を選挙することは自分の住んでいる自治体の政治を自分たちの手で行なうということにほかなりません。

選挙の重要性をあらためて考えてみて、私たちの日常生活に直結する地方自治の政治に深い関心を持ちましょう。

みんなで読書
あかるい社会

読書の秋です。しずかな夜を本につきあってみてはいかがですか。気らくに一人で読み耽げるのもいいし、気の合ったグループで、あるいは、家庭で子どもたちといっしょに読み合うのもたのしいことでしょう。

十月二十七日から十一月九日まで文化の日を中心に二週間、秋の読書週間がはじまります。読書によって明るい家庭明るい社会をつくりましょう。

いま公民館には約三千冊の図書があります。部落の婦人会グループの方々には、数十冊まとめて貸出しもいたしますので、わざわざ公民館に出かけられない方は団体貸出しをご利用下さい。

なかさと文芸
—十月投句—

陽を弾き鶫の間引菜抱え来る　大泉
深殺に茸取り女が呼び合うは　正
顔いっぱい日に濡れ居るや三尺寝　梢陽
サングラス農にほこりをかけて過ぎ　梢陽
秋ふける去年の都や九四の旗　節
秋風や癒えず郷愁に目もうるむ　正乃
終い風呂流し合う背に柚子匂う　正光
病む身とは言いたくなきや啼かぬ蝉　露丘
稲車道ゆずりつゝ穂を撫る
稲架の闇出て影追う十三夜　梅人
秋晴れの運動会や人の波
豊作を祝う花火や秋祭り　えつお
学生の下駄鳴らす音稲架に消ゆ
もろこしを茹でいし音よ楽しかり　芒月
稲刈りの遅れ惜しめど春狩り　一枝
刈終えし団欒賑う祝い餅
稲株に羽根を休めし赤蜻蛉　ミチ
秋茄子うまさを知るほど齢重み
ひさかたの夕日姉のほほ染める　ユキイ
石橋に葉落つ音のカン高く
服装も色とりどりで稲を刈る

青年会をもりたてよう

青年が減ってきたうえ、村にむしろ、古い部落青年会的性格住んでいる青年も、通勤青年や出稼ぎ青年が多くなってきて、倉俣地区など一部の地域のほかは、青年会があるというものの、これといった活動もなく、火の消えたような状態で、すでに青年会を解散してしまった部落もある。青年たちは、一人一人はそれぞれ、なやみやねがいをもっているのだろうが、それを吐出し、何とかしようとする仲間や機会や場がないというのが現状のようだ。

村の連合青年会では、さきごろ役員や有志が集り、地区青年会の実情について話しあい、これからの活動については、フォークダンスの集いや、ハイキング、交流会など気楽に参加できる行事を通じて、青年の仲間づくりをしていこうということになったが、組織づくりについていままでの部落単位の青年会から、もうすこし広域な、地区青年会をふだんの活動の仲間とする組織に再編成してはどうか。現在も一応地区青年会が単位団になっているが、実情は会員が少なくなりながら、部落ごとにしかまとまっておらず、それが部落青年会の実態調査をしてみたいものである。

原爆被爆者実態調査対象者は申出下さい

昭和二十年八月広島市、長崎市に投下された原子爆弾によって被爆した人についてきたる十一月一日、全国一せいに実態調査が行なわれます。

この調査の対象は次の項目の一つに該当する人となっておりますので、対象者は、十月三十日までに役場社会厚生課へお申出下さるようお知らせします。

▽調査対象となる人

被爆者対象手帳をもっている人は、この調査の対象となりますが、手帳をもっていない人でも次の1から4までのどれかにあてはまる人は調査の対象となります。

①原爆が投下された際、当時の広島市内、長崎市内および、当時のつぎの地名の地域内にいた人

イ、広島県にあっては安佐郡祇園町のうち、長束、西原および西山本、安芸郡戸坂村のうち、狐爪木、安芸郡中山村のうち中、矯久保、北平原、西平原および宮田、安芸郡府中町のうち茂陰北

ロ、長崎県にあっては西彼杵郡福田村のうち、大浦郷、小浦郷、本村郷、小江郷、および小江原郷、西彼杵郡長与村のうち高田郷、および吉無田郷

②原爆が投下されてから二週間以内に救護などのため、爆心地付近のとくに放射能の影響の強かった地域内に立入った人。

③①にも②にもあてはまらないが、多数の遺体の処理などのため、原爆の放射能の影響を受けた人。

④当時①から③までにあてはまる人の胎内にあった人。

衛生自治会役員研修会開く

住みよい村づくりにご協力を

例年の視察研修を返上して今年は清津峡ホテル（西田尻）を会場に午前十時～午後五時まで息つくひまもない盛だくさんの勉強をして頂きました。部落推進委員の研修会れた二端をお知り頂き今後共尚一層の住みよい郷土作りに御協力を下さいますことをお願いいたします。

九月十一日朝から土砂降りにもかかわらず推進委員三十四名が出席、十時開会、村長の挨拶にはじまり住み郷土市魚沼郡安部長庭野会長よりよい会を持たれたとあいさつを頂く。保健部長より挨拶をかね保健衛生と地域組織の役割について講演、佐藤衛生課長より地域開発と保健衛生について、丸山技師より地域組織はいかにあるべきかについて、尚中里村の保健衛生の現状と将来について役場社会厚生課長より各講師から熱心な講演を頂く。引きつづき、夏季大学受講内容報告（衛生係）次に部落代表の実態発表にはいる。司会丸山技師、助言者、村長、所長、課長（保健所）庭野会長の講師先生方にお願いする。

◎発表部落及び内容

①宮中＝清掃する時は川までもしている。

②堀ノ内＝週一度内外清掃。

③新屋敷＝月二回消毒ゴミ処理について申し合せ（清掃及び堆肥に）

④荒屋＝ゴミ処理に苦慮、乳剤の方が効果的だ。

⑤重地＝寝室の消毒、ゴミ捨場の放任等に苦慮。

⑥程島＝蚤のために苦慮が多い等の発表があり各助言者より助言を得る。

一、婦人会のみ依存していないで部落ぐるみで

一、蚤等があり農村はやりにくいが話し合いで

一、カ、ハエだけでなく他の部面までも組織によって（母子結核事業花）

一、ゴミ処理に苦慮して居るが大きな問題である。

◎全体討議

①部落内の蚕舎の問題について

②犬の放し飼いの問題について討議問題もたくさんあり又、各講師からも、もっと助言を頂きたく心残りであったが、日程よりおくれ四時から懇談会、くろいた気分で、自分の部落と他の部落を比較し合い、自慢したり、がっかりしたりの大変などやかな ふんいきの内に閉会した。（自治会事務局）

――お知らせ――

ネズミ退治研究会

田、畑に縁がおりるようになりますと家の周辺に棲んでいたネズミは食物の豊富な、そして棲みよい人家に一度に入りこむようになります。この期を逃がさず皆んなの力で、一匹残らず退治しましょう。一匹のネズミは年間百五十日平均の被害を与え人口の約四倍棲んでいると言われますので、中里村では三万六千匹生棲し、一年間に、五百四十万円の被害を蒙っている勘定になります。つきましては、昨年度と同様に本年も、一斉ネズミ退治を行ないますが、これに先だってネズミ駆除の研修会を左記日程において行ないますので一人も多く駆除方法を知って多数のネズミを退治することに御協力下さい。

日時 十月二十八日、午前九時三十分より十一時三十分

場所 田沢小学校礼法室

十二線トンネル工事すすむ

ダダッ、ダダッ、ダダッとコンクリート打込作業の機械音がうっすらと紅葉しかけた清津峡の山々にこだまする。十二線道路工事はいま、倉下部落地内にさしかゝるトンネルが現場だ。昨年から導坑の掘さくが開始されたトンネルは金属百六十五尺でまだいわゆる十二線の山をブチ抜くトンネルではないが、土倉、倉下部落まではすぐそこ。秋の日に照り映える紅葉の山麓に沿って続く十二線は処女のように初々しく、発展のあかつきにかける期待は中里村の産業に観光に夢のようにひろがっていく。

【写真は工事現場にて】

小中学生科学研究発表会

鈴木、樋口両君入賞

去る十月五日、十日町小、中学校で理科教育センターの主催で第一回郡市児童生徒科学研究発表会が行なわれ、次の児童が入賞しました。

小学校高学年の部 第三位

清津峡小 六年 鈴木 寛隆

「ぼうふらがかになるまで」

小学校低学年の部 第三位

高道山小 三年 樋口 由一

「かぶと虫の研究」

11月3日文化祭

各種作品ご応募下さい

日増しに秋も深まり紅葉の色彩も美しい季節になってきました。秋は自然の芸術だといわれています。お互いに毎日が忙しく、暇のない生活ですが、美しさや、たのしさを生活にとり入れる心の豊かさをもちたいものです。

公民館では、十一月三日「文化の日」の、恒例中里村文化祭の作品を次のとおり募集しておりますので、ふるってご応募下さい。

①美術展

▽書道＝一般の部、小、中学生の部、書体、半紙、条幅いづれも自由。

▽絵画＝一般の部、小、中学生の部、題材自由、大きさ四ッ切以上。

▽彫モ、彫像＝一般の部、小、中学生の部、題材、大きさ自由。

②写真展＝一般に限る。題自由大きさ四ッ切以上。

③手芸展＝一般、中学生の部、刺しゅう、編物、組工物、民芸品、人形など。

④生花展＝一般に限る。流派いすれでもよい。

⑤菊花、盆栽、水石展

⑥短歌、俳句展＝一般、中学生の部。

▽応募期限＝十月二十五日まで（但し生花、菊花、盆栽出品者は十一月三日午後会場に展示する）

▽出品先＝中里村公民館、作品には住所、氏名等明記して下さい。

▽その他＝出品者には記念品を贈呈します。

× × ×

芸能祭のお知らせ

十一月三日、午後一時より田沢小学校ステージで芸能祭を催します。出演者を募っておりますので希望者は公民館あて、ご連絡下さい。

①出演者＝一般に限る。

②種目＝歌謡、詩吟、民謡、舞踊、器楽演奏。

③その他＝参加者には記念品を贈呈します。

人生往来

清津峡小改築工事はかどる

狭まい教室、危険な老朽校舎で困っていた清津峡小学校は昨年の特別教室増築にひきつづき今年は本校舎改築に着手、去る七月一日より三高土木の請負で建築工事がすすめられてきましたが、工事がはかどりいま建物の仕上げにかかっています。完成は十一月二十日の期限となっていますが、子どもたちは明るいりっぱな新校舎で勉強できる日が近いとみんなよろこんでいます。

【写真は完成近い清津峡小】

10月28日児童対策指導者研修会開く

十月二十八日午前九時より中里村児童館で家庭児童対策指導者研修会が、郡社会福祉事務所村社会福祉協議会の主催で開かれます。家庭児童相談員の方から話をきいたり、村内健全育成活動の事例などについて話しあって、子どもたちの指導や、家庭のあり方について理解を深めようというものです。一般の方々からもたくさん参加していただきたいので、隣近所さそいあってお出かけ下さるようお知らせします。

明るい生活 郵便貯金

郵貯奨励運動に協力下さい

郵政省では、十月いっぱいを「住みよい郷土をつくる郵便貯金奨励運動」の期間とし、また十二月から一月末までを「年末年始郵便貯金増強運動」としてみなさまのご理解と協力を呼びかけています。

郵便貯金は、大蔵省資金運用部というところに集められたのち、国家資金として、それぞれの地方へ融資され、町や村の教育施設や、水道や道路や橋梁、公営住宅、病院の建設をはじめ農林漁業、災害復興資金など公共事業資金として役立てられ、地域の生活環境の向上と繁栄のために活用されています。いま新潟県には三百八億円も融資され、郵便貯金の現在高四百三十九億円の七十%にもなっているわけです。

貯蓄はみなさんの生活を守り住みよい郷土づくりにはたらいています。この運動にご協力下さるようお願いします。

台風と税金

――十日町税務署――

二十四号台風で被害をうけられた方には、税金の免除や軽減ができます。

所得税の予定納税基準額のある方は、十一月十五日までに第二期分の所得税について減額の申請をすることができます。

給与所得者の方は、被害額がその住宅や家財の半分以上あった場合、本年中の所得金額（収入金額から給与所得控除額を差し引いた金額）の見積額に応じて、次の区分で所得税の減免がうけられます。

▽所得金額の見積額が十五万円以下の場合――全額免除

▽所得金額の見積額が五十万円を超え、八十万円以下の場合――半額免除

▽所得金額の見積額が八十万円を超え、百二十万円以下の場合――二割五分免除

減額や免除の申請用紙等は、税務署に備えつけてあります。詳しいことは遠慮なくご相談ください。

自動車税のお知らせ

十日町財務事務所

◎今年の四月一日から法律の改正により、新規に自動車を購入したときの自動車税は、陸運事務所に登録のとき、現金で納入しておりましたが、こんど十月一日から新潟県の収入証紙によることにいたします。

この収入証紙は、第四銀行、北越銀行のほかに新潟県自動車販売店協会および新潟県自動車登録番号標交付代行者（いずれも陸運事務所の近くにあります）で売っております。

◎自動車税第二期分の納期は、十月一日から十月三十一日までです。納付書は、十月十五日ごろお手もとに届く予定ですから、ぜひ納期内に完納くださるようお願いいたします。納税貯蓄組合による一括納税を利用してください。

国民健康保険税完納月間実施中

国民健康保険財政の健全な運営を行うためには保険税の完納が先決条件でありますので、十月を国民健康保険税完納月間として保険税の収納率の向上をはかることにしました。中里村においては、みなさんのご協力により毎月好成績をあげておりますが、いよいよ十月は国保税が決定賦課されますのでご協力をおねがいいたします。